
迷宮には探偵が

霜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷宮には探偵が

【Nコード】

N0722Z

【作者名】

霜月

【あらすじ】

高校一年生の11月^{ストウ}須藤^{リオ}璃桜は親友の死をきっかけに廃墟と化したカフェ・ラビリンスの店員兼探偵事務所・ラビリンスの探偵林^{リント}道^{エイジ}瑛士に出会う。

瑛士の手伝いをするようになった璃桜はラビリンスに飛び込んでくる難事件を何とか解決していく！！

prologue コミ箱の中のキオク (前書き)

えっと、初めてなので上手じゃないし読みにくいかもしれませんが
どうか最後までお付き合いください！！

prologue 〱 三箱の中のキオク 〱

あの人はいつも笑っていた。

俺はあの人の笑顔が大好きになった。

あの人が大好きになった。

「大切だ」と思った。

「守りたい」と思った。

そして、また期待した

「あの人なら俺をもう独りにしないでくれるんじゃないか」と

でも、それはただの淡い妄想でしかなかった。

土砂降りの雨の日だった。

拳銃の銃口から放たれた弾丸は

あの人の心臓を貫き

俺の妄想をかき消した。

簡単に俺の心はまた壊れた。

ホントの母さんが居なくなってから、初めて人が信じられたのに

運命ってのは思ってたよりも綺麗じゃなくて、
残酷だった。

十年前の悲劇、

冷たい雨が体を濡らし、

真実を洗い流した日、

あの人は、俺を育ててくれた母さんは死んだ。

俺が…殺した。

prologue 〱 箱の中のキオク 〱 (後書き)

読んでくれてありがとうございます！

次回からは謎解きがあります。

どうぞ期待！

第一章・地下室には友人が（前半）

五時を告げるチャイムが公立愛光高等学校の校舎に響き渡った。

須藤 璃桜はそれを聞くと慌てて書いていた日誌を閉じ教卓の上に置き、机の中にある筆箱や教科書を鞆の中に放り込み足早に教室を出た。

廊下の冷たくなった空気を吸い込んで赤くなった鼻を左手で擦りながらガラスの外側に広がる紅と黒の混じった空を見て

「遅くなっちゃったな」

と独り言のように呟き、苦い顔をした璃桜は走る速度を上げた。

今日は璃桜にとって特別な日：璃桜の父親である須藤 ストウ 智也 トモヤ が一年ぶりに転勤先の

東京から福岡に帰ってくるのだ。

本当はもっと早く家に帰って腕によりをかけた豪華な夕食を作ってあげたかったのだが生憎今日が日直

だった璃桜は日誌を書かなければいけなく結果帰るのがこの時間になってしまった。

「もうこんな時間だし作れるものも限られてくるな」お父さんの好物のオムライスでいいかな」

璃桜が下駄箱の前で夕食について色々悩んでいると後ろから意外な声が出た。

「璃桜、日誌終わったの？」

声の主は璃桜の親友、本城 ホンジョウ 朱里 アカリ だった。いつもなら驚いたりしないのだが、

今日は例外だ。璃桜は朱里がてっきり先に帰っていたと思っていたのだから。

「一時間も待ってたの？も」先に帰っててくれても良かったのに……」隠しきれない驚きを察されないように口を緩ませ言った。しかし、

朱里は璃桜が驚いていると分かつ

たのだろう。

「あゝっごめん驚いたよね、もう5時だしね。ホントごめん…話したいことがあったんだけど、璃桜なんか急いでるっばいから、いいや」

こういう時の朱里の勘は怖いな…璃桜は密かにそう思いながら下履きを履き答えた。

「うん、急いでるけど親友の相談には乗ってあげないとね。歩きながらでいいなら話聞くんよ。」

しかし、朱里はそれを複雑な顔で拒否した。

「いや、いいよ。このあと私、行かないといけないところあるから。

明日…ね。」

「そっか、じゃあまた明日」

璃桜は父に会えるのを楽しみに家路を急いだ。しかし、璃桜の頭からはさっきの朱里の違和感が離れなかった。

第一章・地下室には友人が（前半）（後書き）

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0722z/>

迷宮には探偵が

2011年12月3日02時55分発行